

こども特派員が行く!!

このコーナーは、小・中学校の子どもたちが自分たちで編集・発行する「特派員」となり有田市の良さを伝えてくれます。今回のこども特派員は、港小学校5年生、大西泰紀さん、笠松孝直さん、坂井楓河さん、児嶋朔也さん、上野山隼さんです。
※紙面の文章及び掲載の写真はこども特派員によるものです。



観光ストリート 熊野古道 — 糸我峠編 — Vol. 6

本市から湯浅町方面へ向かう坂をのぼりきると湯浅の町並みを見おろす壮大なパノラマが広がります。そこがかつて熊野詣でをする人々がひと休みしていた糸我峠です。江戸時代には峠の街道を挟んで二軒の茶店があり、名産のみかんをふるまっていたと記録されています。



紀伊国名所図会に掲載されている糸我峠茶屋の様子

第11回港町通学合宿

7月3日(木)～5日(土)、港町公民館で第11回目になる通学合宿が行われた。毎年港町で行われている通学合宿だが、あまり知らなかったりする子や大人の人に広めたいと思い取材をした。取材の中で、ボランティアの方々の知られざる思いを聞くことができた。(坂井楓河)

通学合宿はじいちゃん?

平成16年にスタートし、毎年7月に行われている通学合宿。港町は有田市で最初に取り組み始めた。そのきっかけを当時の港町青少年育成会長である神保一弥さんに聞くことができた。

「これはいいことだ。私たちもやろう」と、他の地域の見学に行ったときにそう思ったそう。子どもたちの自立心を育み、のびのびした子に成長してほしいという思いがあった。今では、通学合宿を支える地元ボランティアのボランティアは150名以上にのぼる。



(大西泰紀)

二つの思い

中心となって動いている現港町青少年育成会長の鎌田利宏さんが教えてくれた。二つ目

「平家物語」の舞台にも

白河院が熊野へ行幸された時、糸我峠に興をすえ、休息された。その際、平忠盛が白河院から賜った祇園の女御が男子(平清盛)を生んだことを報告しました。その子が夜泣きすることを聞いた白河院は、「夜泣きすとただもりたてよ末の世に清く盛る事もこそあれ」と詠みました。「清盛」の名はこの歌からつけられたのではないかと言われています。

世界遺産への夢

糸我峠までの急な坂道は、通称「七曲り」と呼ばれており、紀伊路の中でも昔のままに残されている貴重な古道です。鬱蒼と茂る竹林の中を歩くと古代にタイムスリップした気持ちになります。今後、糸我峠が国指定史跡に申請される予定で、それが指定されれば、いつか世界遺産に登録されるのも、夢ではないかもしれせん。

「有田市の熊野古道」写真パネル展及び記念講演会

有田市郷土資料館では、「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年記念として、写真パネル展「有田市の熊野古道」と記念講演を開催します。熊野古道に関する文化財について知識を深めてみましょう。

写真パネル展

期間／8月20日(水)～31日(日)
午前9時30分～午後5時

場所／郷土資料館

(文化福祉センター内)

入場料／無料

※入場は午後4時30分まで

※火曜日は休館日

記念講演会

日時／8月23日(土)

午後1時30分～

場所／文化福祉センター

題名／「熊野参詣と有田市の熊野古道」

講師／和歌山市立博物館館長 寺西貞弘氏

入場料／無料

問 郷土資料館

TEL 82-3221



に大人と関わってほしい。せっかくの機会だからたくさんしゃべってほしい。

(児嶋朔也)

通学合宿Q&A

ボランティアで手伝いに来ている松本加代子さんと若本泰旨さんにインタビューしました。

「食事には何か工夫はありますか?」

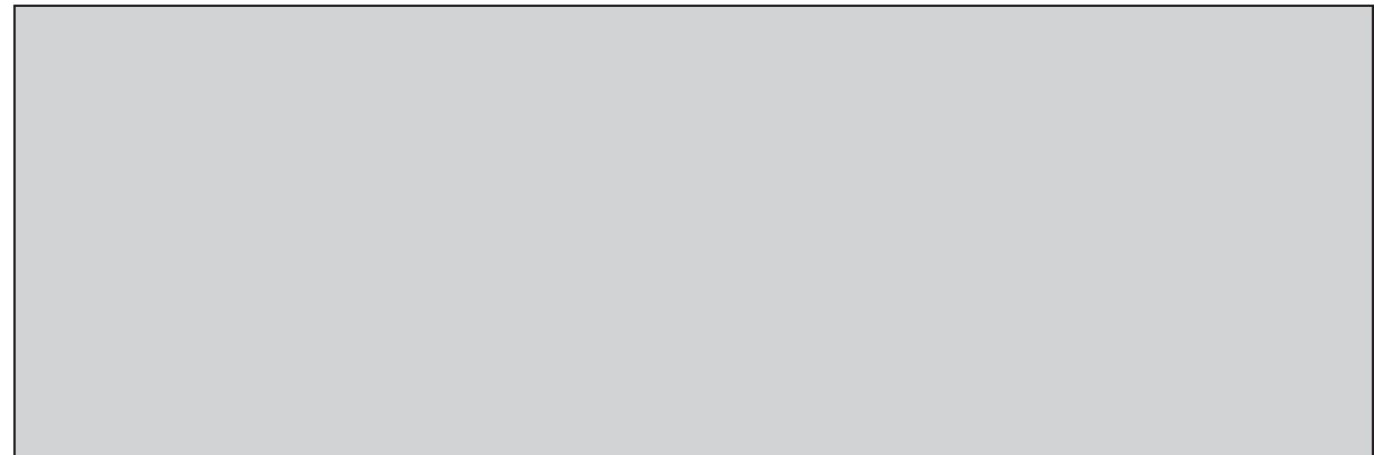
松本さん／子どもたちが好きで喜ぶ、そして作りやすい物にしています。

「なぜ寝る前にこわい話をするのですか?」

岩本さん／毎年子どもたちが楽しみにしてくれているからです。興味を持てるようにネタを探しています。

(笠松孝直)

広告



広告

